

あかおとさん

10号
真宗大谷派
高徳寺通信

2023年秋号



AKAO no DOUSYU



釋了吾の 八女日記

ノミヤ 13



皆さん、こんにちわ。連日の猛暑、異常な暑さで、
もはや通常になってしまったようだ。本当に過ごしに
くい夏をどうお過ごしてしまったか。八女でも、色々
づき始めた水田や暑さでぐったりとしている野菜
たちを横目に、汗だくになりながらお参りをしてお
ります。普段お参りをする時は、襦袢の上に白衣を着
と「う白い着物と、その上に間衣」という黒い衣を着
て行きますが、なかなかこれが暑くてかなまません。最
近ニュースでも、クーラーは入ればなしにした方が電
気代が安くなると言つて、なるべく消さないよとの
情報が周知されますが、本当に家中の中でも死者
が出るような暑さですね。もうちょっとで秋が来ると思つてもうひと踏んばりどころ。この文章が出来るま
ろには、涼しくなってほしいものです。八女では、ほんの間まで8月のお盆がありました。衣を

着て自転車をこぎながら、水分を各家庭でいたたきながらなんとかお参りが出来ました。今年は去年より初盆(東京では新盆)という
でじょうか)が多く、NHKのニュースにもあた
通り全国的に死者数が増えてるんだな
あと感じたところです。ご高齢の方がほとんど
ですが、中にはまだお若い方も…それから
悲しみを共にする初盆の季節が終わりま
した。お通夜などで読まれる「白骨のお文」とい
うお手紙に「老少不定」という言葉があり
ます。私たちは、どいか老いたものから順番
に亡くなっていくと勝手に思い込んでいいけれど
も、本当は老いも若いも関係ない順番など定まっていないんだという言葉です。悲し
い縁があたなうば、どんなに若くて元氣
であっても、たちまちに散ってしまう。そんな
はかない命を今、生きさせてもうっている。で
あればこそ、老いも若いも関係なく「たな
たを救いたい、我が名を祓えなさい」と呼び
かけておられる阿弥陀さまに「今」手を合
わせて、念佛するということが大事なのでし
ょう。人生とどものは今の連續であると
聞いたことがあります。しかし、どうしても今
ではなく先のことを考えて日々を過ごしてしま
ます。私も東京へ帰省したり、おいしい
ものを食べたりと楽しみなことにばかり日

が行ってしまいます。南無阿弥陀仏。

さて、去る8月26日には、今お世話になつてゐる明永

寺さんの謹紀前住職の三回忌が営まれました。

三回忌は丸二年過ぎた時に営まれますが、なんともも

あつと/or間の二年間だったなあと感じます。当日

は御親戚や交友のあつた方が集まってお勤めと

お法話、お齋(仏事のあとのお食事)にもご一緒させて

いたときました。今回ばかりのものは七き方と出会い、

直す、用い返すきっかけを仏様からいただき御縁な

んだけよといふことを、前住職には生前教えていた、だ

きました。その通りの御仏事になつたなあと思ひます。

また、高徳寺の前住職の七回忌も今年の11月に

営まれます。祖父の葬儀の時、私はまだ大学生

で、筑後の九州大谷短期大学の仏教科に入学する

前、卒業論文をせさせと作つてゐる頃でした。6年

とつのも本当にあつと/or間です。境内に大きな

テントを張つての通夜・葬儀。縁のあつたお寺の門徒

様、祖父の友人・知人の方々、そして高徳寺の門徒の方々：沢山の方々にお参りを頂いたことを思

い返しました。あの頃はまだ正座にも慣れず(

体重が重かったのです)、本堂で焼香する時に

ひっくり返りそうになりました。いつもお坊さんは

ご門徒さんの御法事を勧める立場ですが、身内

の御法事を勧めることはあまりないため、不思議な心地がします。とりても、準備などは東京の方にお任せで、八女から当日参るだけの氣儘な人間なのです。(手伝があれば言ってください)

最後に4月から受け持たせていた、いわゆる「自己との出会い」は、なんとか15回の授業を終えまして、レポートも出してもらいうましく成績もつけ終りました。人様に成績を付ける立場になつてしまつたという謎の苦しみがありました(笑)。拙い授業ではあつのですが、私の伝えたことが伝わったし、ポート内容があつて、有り難いなあと思っております。しかしながら、後期もまた「自己との出会い」とあります。又、毎週悩んで、学生さんたちの貴重な90分を頂戴して、一緒に自己とは何かについて考えていくだだと思います。今回は2年生もうすぐ卒業の学生たちです。4年前の現役時代を思い返しながら、コミュニケーションを取りたいと思ひます。(つづく)

ほう おん こう

2023年 高徳寺 報恩講 のじ案内

今年はコロナ禍以前の形でお勤めさせていただきます。
以前のようにお通知(手紙と返信(出欠)ハガキ)はお送りいたしません。
ご参詣を希望される方は、電話にてお名前と人数をお知らせ
ください。※お齋(お食事)はお出しいたしませんのでご了承ください。

◆ **10月21日(土) 於・高徳寺本堂**

12:30～	受付
13:20	住職・総代挨拶
13:30	法話 三明 智彰先生(九州大谷短期大学・学長)
15:00	休憩
15:30	報恩講法要
16:30	恩徳讃齊唱 住職挨拶 参詣者焼香
16:45	終了(予定)

※ご参加を希望の方は10/16(月)までに高徳寺へご連絡ください。
一緒に仏法聴聞の場に身を据えて、お参りいたしましょう。

ゴーエンズ GOENZ Live

去る9月3日(日)、4年ぶりに「ゴーエンズ」のチャリティーライブ「パークナイト」を開催いたしました。「ゴーエンズは高徳寺住職をリーダーとするアマチュアバンドで、「縁」「業」存在の人間」「GOENZもまで」ということがその名の由来です。音楽を通して、縁のある方々がふれ合い、楽しくて参加費や募金を少しでも災害等でお困りの方へお届け出来たうとうございました。お手伝い頂いた方、ご入場をして頂いた方にこの場をお借りして御礼申し上げます。おかげで大変盛り上がりました。来年も企画いたしますので、是非遊びに来てください。

◆オリジナル曲「アソク煩惱」
「ボンボン、ボンボン」との声
が響き渡りました!!



《GOENZメンバー》
大町友義(G.) 今井佐代子(Vo.) 橋本和也(Sax)
五島満(G.Vo.) 新井義雄(B.)
小笠原翔(dr.) 宮本伸(Key)
石川ひとみ(Vo.) (敬省略)

(右から)

◆ライブ終了後、会場にお残りいたされた方も全員で記念撮影をいたしました! 皆さんの笑顔が素敵です♪

大阪・難波別院さん発行の
ナニカカツラ

大阪・難波別院さん発行の
南御堂 9号に載りました♪

東京都中野区・高徳寺の取り組み

手書きの寺報「おかげさん」

にのぼる。

トした寺報
も、現在は
103号・
全16ページ



高徳寺WE
Bサイトから
「おかげさん」
が閲覧可能

寺報のおか
げさんと新
井義雄住職

先日南御堂に届けられた寺報「おかげさん」。表紙にアツトンくんのイラストが描かれたこの寺報は、東京都中野区の高徳寺（新井義雄住職・東京教区東京5組）が発行しているもので、本文や随所のイラストは、全て住職の手書きである。話を伺うと、「本山の慶讃

法要に参拝し、難波別院 生の『おかげさんほん』にも立ち寄りました。そ とにそうか『おかげさん』の旅行記を寺報にしたと という言葉によつて、そころ、ブツトンくんがご の意味が自分の中で深ま 門徒に人気で」と笑顔で りました。先生から『君 語る新井住職。

寺報は、新井住職がお さまさまな「縁を本当に 寺の跡継ぎとして務めだ おかげさんと受けとめて した当初、東京教区の僧 いるか?』と今でも問わ した研修会で刺激を受 れて いるようです」と思 いを語り、「手書きは大 け、1997年から手掛け

新井住職は、「私の恩

コロナ禍でお休みしていた仏法の温泉に漫
る研修会、『真宗門徒秋のつどい』がスミ
に開催されます。

◆ 11月16日(木)午後から
17日(金)正午まで

◆長野県・上諏訪温泉『夜の湯』泊

◆ 講師 牧野豊丸氏

講題 南無阿彌陀仏

人と生まされたことの意味をたずねて

◆ 參加費
19,000 円(前後)

※、9月半旬時点でのまでの情報しかつかみません。10月までの確定はない感じです。

◎参加ご希望の方は高徳寺住職へご連絡

「一緒に仏法聽聞の場に身を据えてみませんか……。住職も参加いたします！」

Omigaki Houshi Onrei



2023年9月10日(日)

新井和子さん 石井玉枝さん
児玉金之助さん 清水和美さん
菅原悟さん 菅原千恵子さん
塚田和子さん 仁野平延芳さん
寛谷恵美子さん 藤原淑子さん
水越拓路さん 水越和子さん
(あいとうお順)

お磨き奉仕に感謝いたします。
おかげさんで化粧は一年中
ピカピカです！ 次回は12月10日(日)14時からです。
ご参加をお待ちしております。

寺子屋の時間

今年はあと2回…ご参加をお待ち
しております！（14時から開催します）

10/
7(土)

11/
25(土)

*お一人・500円
の参加費が
かかります。

Kanpa 御礼

神野くらうさん
いつも応援を頂きまして
有ること難いおかげさんです♪

*申し訳ありませんが

12/16は
寺子屋
お休みさせて頂きます…。

*“道宗”は法名です。



◆赤尾の道宗は室町時代後期の淨土真宗の門徒で、俗名は弥七（まことは弥七郎）。越中国五箇山赤尾谷の出身であることから“赤尾の道宗”と称された。蓮如上人の教えを受けてお弟子となられた妙好人の一人。（*妙好人とは信心を生活の中心に据えて生業に励み、人生の苦難すら恵みと受け取って感謝、内に生きられた人をいう。地位も名譽もない、市井で暮らしている庶民）が普普通の人の中に多く見出されてきた…。

◆道宗は、阿弥陀さまの恩を忘れないように自身を戒め、弥陀の四十八願になぞらえた48本の割木の上で眠り、痛みで目覚める度お念仏を称えられたと伝えられてる。

◆道宗さん、すばらしいですね。割木の上では眠れなけれど、お念仏によって『今ここ』私と“うとうと”立てさせて頂く生活を続けていたんだと思いつつ残暑厳しき秋の彼岸会…である。

釋義祐 拝

発行日

2023.9.20

発行

真宗大谷派 高徳寺

編集

住職 新井義雄

T164-0002

東京都中野区
上高田1-2-9

TEL 03-3368-6947

FAX 03-3362-8019

仙法を聞いて道は
ひたすら問ひと

（中川尚男氏のこころば）

＜表紙の絵＞

赤尾の道宗 / 棟方志功作
(割木の上で眠る道宗)
*住職 模写